

ふれあいKAWACHIネット



第91号 令和4年12月
発行：河内教育事務所
ふれあい学習課
後援：宇河地区生涯学習研究会

オンライン化に向けた取組（宇都宮市）

生涯学習課では、学習や活動に取り組める環境整備の一環として、手続等のオンライン化を推進しています。

生涯学習課事業「親学出前講座」においては、今年度から「宇都宮市電子申請共通システム」を活用し、講座の申込がオンラインでも可能になりました。従来のFAXでの申込と併せて、多忙な方や電子申請が苦手な方でも手軽に申請ができるようになりました。

また、「家庭の教育手帳」を従来の冊子版からデジタル版へ移行したことで、家庭教育に関することや学校教育・施設情報について、いつでもどこでも気軽に情報収集ができるようになりました。また、多くの方々にご覧いただけるよう、市HPだけでなく「TOCHIGI ebooks」に掲載もしています。

今後も様々な取組で積極的にオンライン化を進めていくとともに、より多くの方々に情報を届けられるよう、SNS等を活用した周知に努めていきたいと考えています。



夏休み子どもふれあい教室（上三川町）

児童の人権意識の啓発と交流を深めることを目的に、8月3日、5日、9日の3日間で「夏休み子どもふれあい教室」を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大を受け、開催が危ぶまれましたが、参加人数の制限や手指消毒の徹底を心がけ、開催につなげることができました。

教室では創作活動や科学実験、人権学習といったプログラムが催され、事前に申し込みのあった町内在住の小学生児童15名のほか、5名の講師が参加しました。

1日目の創作教室では、樹脂粘土を用いた勾玉づくりを通して歴史の奥深さを学び、2日目の科学教室では塩と氷を用いてアイスを作り、科学実験の楽しさを体験しました。最終日はALTによる語学教室の他、人権カルタに勤しみ、人権意識の重要性を学びました。



河内地区社会教育主事ステップアップ研修

11月4日（金）に今年度の社会教育主事講習受講者を含めた社会教育主事有資格者を対象に、標記研修を実施しました。

講師は、一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事 廣瀬 隆人 氏をお招きし、「なぜ学校は地域と連携するのか」を演題に、「その先にある学校を核とした地域づくり」について御講話いただきました。

「学校と地域の連携は、新しいムーブメントではなく、古くから一体として行われていた」「学校教育の中に多くの社会教育と地域づくりが存在する」「特別活動は地域づくりの基礎力を養っている」など、目から鱗の内容でした。



学校内にとどまらず、日々の生活の中にある学び（社会教育）や人のつながり（地域づくり）の大切さについても、改めて考えることができました。

河内地区地域連携教員研修（県立学校）

兼ふれあい学習ネットワーク

10月25日（火）に、初めての試みとして、県立学校の地域連携教員を対象に標記研修を実施しました。

栃木県総合教育センター生涯学習部長 井上 昌幸 氏を講師に迎え、「学校と地域の特色を生かした学校と地域の連携・協働活動のススメ」と題して、お話いただきました。

生徒が授業で身につけた技能を生かして、地域の困りごとを解決する事例や、ボランティア活動に参加した生徒が地域住民から称賛されて成長していく様子についての話を聞き、学校だけでは身に付かない「生きる力」を育むことや、地域への愛着が芽生えることなど、学校と地域の連携・協働活動の意義や効果について理解を深めました。

また、「地域とともにある学校」及び「学校を核とした地域づくり」の推進を意識した、子どもも大人も育ち合う教育の重要性について再認識する機会となりました。



ふれあい学習に関するお問合せ先

河内教育事務所ふれあい学習課 TEL 028-626-3183 E-mail: kawachi-fureai@pref.tochigi.lg.jp